

Vaccine hesitancy（ワクチン躊躇）とMR接種

沖縄県はしか“0”プロジェクト 副委員長
アワセ第一医院 浜 端 宏 英

2019年、世界保健機構（WHO）が示した「世界の健康を脅かす10の脅威」の中に「Vaccine hesitancy（ワクチン忌避）」がある。明確な意思を持たなくて、ワクチン接種をためらっている人を指しており、「ワクチン躊躇」訳が適切だと思っています。

さて、令和4年度のMRワクチン接種率は1期88.4%（93.5%）、2期85.7%（93.8%）（（ ）内全国）、で全国最下位でした。とりわけ1期は沖縄県だけ90%に達せず、2期も85%台と低迷しています。沖縄県のMR接種率はこれまでも全国下位が多かったのですが、1期の最下位はとても残念でした。接種率を人口の多い市で調べてみると1期2期とも90%以上は豊見城市、那覇市、石垣市の3市で、特に2期的那覇市96.6%、石垣市95.7%は目標の95%以上を達成しており、これまでにない成果でした。特に那覇市の96.6%は全国の中核市別でも第2位となっています。その一方、1期80%未満が1市、2期は3市あり、1期の1市は2期も80%未満でした。町村でみると1期2期とも80%未満は6町村あり、これらの市町村には対策を見直し、頑張ってもらいたいと思います。接種率が良かった那覇市の対応をはしか・風疹ゼロプロジェクト委員会で尋ねたところ頻回の通知が要因と考えられました。2期は全員同じ接種期日ですので、通知を行い易いかもしれません。保育園での接種勧奨や石垣市では携帯電話のショートメール活用もあったようです。もちろん就学時健診での適切なチェックや勧奨も強化するべきポイントです。沖縄県はしか“0”プロジェクトでも、接種率を上げるための調査・研究が行われてきました。20年前の報告¹⁾ですが、上原真理子先生（当時中央保健所）が予防接種に関する保護者の意識調査を1歳半と3歳健診に参加した900名ずつに行っています。それによると予防接種の情報を得る手段としては行政からの通知・広報が最も多く、70%を超えていました。2位は医療機関が30%前後ですので、行政からの通知は断トツに高かったのです。現在は様々な情報ツールがあるので昔の話だと思われるかも知れませんが、接種を忘れていたり、ためらったりしているVaccine hesitancyの保護者にとって行政からの通知や声掛けは背中を後押ししてくれる大切な情報だと思います。もちろん医療機関での勧奨も大切です。那覇市、石垣市の2期接種率95%以上が証明しているように頑固に接種をためらっている保護者はそんなに多くないと考えて活動していくことだと思います。Vaccine hesitancyの保護者を接種に結び付けていくことが接種漏れを無くし、接種率を上げるうえで大切です。世界ではまだ麻疹（はしか）は発生しています。沖縄県の1期2期MRワクチン接種率を上げ、高い接種率を維持していくことが子どもたちを守って行くことにつながります。

¹⁾ 日本から麻疹がなくなる日 安次嶺馨 知念正雄編 日本小児医事出版社 2005, 78-89